

応

五年

画数 7
筆順 一 广 応 応

オウ
クシ

成り立ち



「膺(むね)のことで、心を表す」の意味の「心」と「心」を組み合わせて作った字です。以前は、「雁」と「心」とで、「應」という字でしたが、今は省略して「応」となりました。

「心と心が通じ合う」ことを表した字です。【例】感応、呼応。

「相手の心に自分の心が『こたえる』こと。「相手の呼びかけに対し『こたえる』こと。「相手になって『うけこたえ』をする」こと。【例】応答、応諾、応対、応接。また、「ふさわしい」という意味に使われます。【例】応分、相応。

使ひ方

▽ぼくが一人です番をしている時、知らない人がやってきました。ぼくは、知らない人と応対するのが、ひどく苦手なので、「今、うちにはだれもいません」と、そつげなく言って、玄関のドアを閉めてしまいました。人と、うまく応接できれば、あんな風な失礼な態度を取らずにすむのに、とあとで思いました。

▽久しぶりに雪が降ったので、雪合戦をしました。敵が、すごい勢いで雪玉を投げて来るので、応戦に苦勞しました。

熟語例

- ▽感応(心が何かに感じて、応じ、動くこと。)
- ▽呼応(呼びかけに応じること。)
- ▽応答(問いかけに答えること。「ドアをノックしたが、何の応答もなかった」などというふうに、つかれます。)
- ▽応諾(相手の頼みを聞きいれて、「うん」と言うこと。)
- ▽応接(相手になって、うけこたえをすること。)
- ▽応分(身分にふさわしい程度。「応分の寄付は、いたしましょう」などというふうに、つかれます。)

使ひ方

▽わたしの家から学校までは、往復二十分かかります。でも行きは、まっすぐ行くので、半分の十分ですみませんが、帰りは仲良しの友だちと、ゆつくりおしやべりしながらかえるので、本当は十分では帰れません。

▽ぼくのおじいちゃん九十歳で大往生をとげました。病氣らしい病氣もせず、眠るように死んで行きました。ぼくも、おじいちゃんのような死に方ができたらいいなと思います。痛いのが苦しいのは、とても苦手ですから。

熟語例

- ▽往復(行きと帰り。また、行って帰って来ること。「往復切符を買うと便利だ」などと、つかいます。)
- ▽往生(死ぬこと。あの世へ行って、そこで生きる、という意味の言葉です。また、死ぬことから、大変に困ることの意味にも、つかわれます。「財布を落として、往生しちゃったよ」などというふうに、つかうのが、それです。)
- ▽往年(過ぎて行った年。つまり、昔のことです。「往年の大スター」などというふうに、つかいます。)

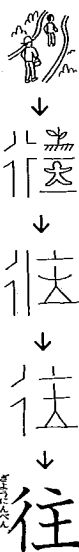
往

五年

画数 8
筆順 一 行 往 往

イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ

成り立ち



「道」の形を表し、「行く」という意味の「イ」と、「行く」意味を表す「之(今の字は「」だけ)」と、この字の発音を表す「王」とを組み合わせて作った字です。「道を行く」という意味を表し、「王」と発音する字ではありません。

「」は、昔の字では「之」になっていますが、今は「」だけで、それが「王」の上にあって、「主」という字のように見えるので、そうではないことをよく理解しておいてください。